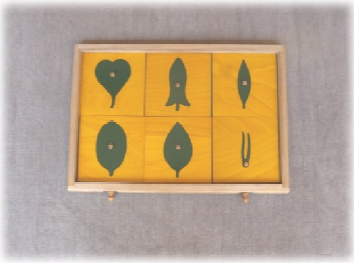
個別活動
モンテッソーリ活動

大　好　き　　お　仕　事

今年度このページを担当するスタッフの大好きなお仕事をご紹介をします♪

葉のたんすとカード

（感覚教育）



私が好きなモンテッソーリ活動の一つに「葉のたんすとカード」というお仕事があります。
３段のたんすの引き出しに１５種類の木製のパズル型の葉の形が入っていて、子どもたちは、鉛筆のような棒で葉の縁をなぞり、はめ込んだり、カードと合わせたりする活動をします。その形を十分確かめた後、名称を紹介します。春になると、庭先や散歩に出た先でたくさんの草花や若々しい緑の葉を見かけます。自然が大好きな子ども達はお散歩にでかけると小さな野草を摘んできたりします。葉の形を知るということを通して、大げさかもしれませんが、生物の多様性を知るきっかけになったり、観察することの楽しさを経験するのではないでしょうか。地球上で多くの生命体と共存していく未来の子ども達のガイドとなる素敵な活動だと思います。

（河野　佳子）

静粛の練習

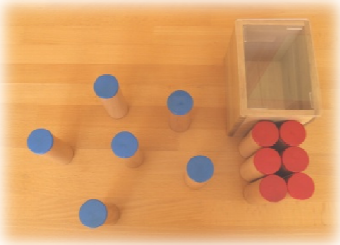
（日常）

日々の暮らしの中に例えば電車の中で誰ともお話をすることなく外の景色を眺めているときなど、ほんの数十秒でもお子さまと静かな時間を過ごす時があると思います。この偶然ともいえる静けさを、今度は耳を澄まして意識的に静かにしてみる「静粛の練習」というおしごとがあります。私は子どもたちと一緒に「静かにすることを楽しむ」ことで得られる一つのまとまった調和を共感しあえるこの活動がとても好きです。子どもたちはイスに深く腰掛けて正しい姿勢で目を閉じ、教師がそっと鳴らす鈴の音が聞こえるまで静かに待ちます。この時、風や人が作る音、また自分でさえ音を出していることにも気づくようになります。早く知らせたくて目を開けたい気持ちも、それまでのおしごとを通して備えられてきた自己コントロールする力で最後まで閉じたまま静けさを楽しむ可愛らしい子どもたちは、とても幸せな平和に満ちた姿を見せてくれます。

（濱岡　麻紀）

雑音筒

（感覚教育）



私はモンテッソーリ教具の中で雑音筒のお仕事が好きです。雑音筒はビーズの入った筒を振り、片耳で集中して音を聴くお仕事です。筒の中には色々なビーズが入っているので、ジャラジャラした音やシャラシャラした音が出ます。またこの教具には赤い蓋と青い蓋の筒の同じ音のするものが２本ずつ入っていて全部で 12 本あります。まず赤い蓋の筒を右手で振り音を聴きます。次に青い蓋のものから同じ音のものを探し当てます。６ 本対にしたら完成です。私が雑音筒が好きな理由は、耳を澄ませながら雑音筒の音を聴いた時、「なんか音がする」と面白がる姿を垣間見れることと、必ずと言っていいほど「もう一回振っていい？」と子どもが興味津々になることです。少し難しいお仕事のように感じるかもしれませんが子どもたちは筒を振ること自体が楽しくてしょうがないようです。モンテッソーリ先生は雑音筒を行う事で子ども達は日常生活の中の大きい音や小さい音を敏感に感じ取り、心地よい音とはどんな音かを知っていくと言っています。

（齋藤　香里）

ＡＭＩ（国際モンテッソーリ協会）公認の有資格者です。他に、正岡.藤井.吉田菜央が、有資格者となっております。

個別活動 モンテッソーリ活動

大　好　き　お　仕　事

赤バッチが繰り返し確認したお仕事

園での毎日のおしごとの時間以外にモンテッソーリ教育は普段の生活の中にもたくさん隠れています。「椅子を運ぶ」もその一つです。椅子の横に立ち、両手のひらを上にして椅子を下から支えるようにして持ちます。片方の手は背もたれの下部分に、もう片方は座面の縁に手を当てて持ち上げます。小さな体で、特に赤バッチの子どもたちは全身を使って運んでいます。この世に生まれてまだほんの数年の子どもたちにとって、身体の機能は発達段階にあります。自分の体を自分の意志のまま思う通りに動かせるようになった時、そこにスポットライトが当たったかのように喜んで何度も同じことを繰り返します。私たちはそれを「運動の敏感期」と呼んでいます。横断歩道の白い部分だけ、また少し高い所をわざわざ歩いてみたり、何度もドアの開閉をしたりなど、ご家庭でも思い当たることがあるのではないでしょうか。　（M・H）

椅子を運ぶ
（日常生活の練習）

黄バッチが丁寧に取り組んだお仕事

これは、「じゅうたんの巻き伸ばし」です。じゅうたんの上で活動する機会も多く、子どもたちが必ずふれる教具です。新年度がスタートし、新バッチになった喜びの時期に必ず子どもたちと一緒に正しい扱い方を確認します。巻き方、伸ばし方は少し特別な方法で行うので、子どもたちは、興味を持ち見ています。またもう一つの興味点は、じゅうたんではなく、自分が動くということです。子どもたちは両手いっぱいに広げ、じゅうたんの端と端を持ち全身を使って行います。これは、自分の体を意識しコントロールする練習でもあるのです。どれだけ集中し、意識し行っているかは、じゅうたんが教えてくれます。なぜなら、じゅうたんの端が不揃いになってしまうからです。自分の体を自分の思いのままに動かすことが出来る喜びを体験しているのです。時々、片付け忘れたじゅうたんを「誰かまいてくれる？」と声をかけると、喜んで行ってくれます。じゅうたんを２、３枚広げて、じゅうたんをふまずに歩くという活動も人気です。大人からみると「それが活動なの？」と思うかもしれませんが、毎日使うじゅうたんです。正しく扱うこと、大切に扱うことを体を使って学んでいる子どもたちです。　（Y・A）

じゅうたんの巻き伸ばし
（日常生活の練習）

青バッチが挑戦したお仕事

進級と同時に、「はめこみ世界地図」の活動に積極的に取り組む新・青バッチさんの姿が見られます。日本を含むアジア大陸からスタート。初めは各国の形をはめ込むパズルをします。「ロシアは大きいね」とか「日本は海の中にあるね」など、いろいろな発見をしながら進みます。次に国別に地図を塗り分けます。広い国などは塗りつぶすのにも一苦労です。海を青い絵具で塗った後、見本を見ながら国名を貼っていきます。アジアには５０近い国がありますので、カタカナの国名の読み方を知り、地図の中から場所を探し出し、国名を貼るという一連の活動には本当に根気が要ります。長い活動なので、「今日はここまでやる」、とか「今日は３つの国だけにする」とか作業の仕方を決めるのも自分と相談しながらです。そうして大きな仕事を成し遂げる自己訓練を子ども自身が行っているのです。　（Y・K）

はめこみ世界地図
（文化教育）

＊保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは１人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、１人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

個別活動 モンテッソーリ活動

大　好　き　お　仕　事

赤バッチが繰り返し活動したお仕事

赤い棒
（感覚教育）

モンテッソーリの感覚教具の中で、子どもが最初に経験する３ブロックと言われる「桃色の筒」「茶色の階段」「赤い棒」があります。「桃色の塔」は三次元で大小を、「茶色の階段」は二次元で太い細いを経験する教具であるのに対し、「赤い棒」は一次元で長短の理解を助けます。木製の赤い１０本の棒で、最も短いのは１０㎝、漸次１０㎝ずつ１ｍまで増加します。絨毯上にバラバラに置かれた棒を目で見て、棒を手でなぞり、長いものから順に階段状に並べます。長さの差が一番短い棒一本分なので、並べ間違えると子ども達自身で間違いの自己訂正ができます。十分に活動した後に「長い、短い」という言葉が与えられます。視覚のみならず触覚を使った活動を繰り返すことで、具体物から離れても言葉を聞くだけで理解が進み、限界を持たずに環境を取り込むことができるようになるのです。　（Ｙ．Ｋ）

黄バッチが集中して取り組んだお仕事

鏡を磨く
（日常生活の練習）

これは、鏡を磨くという黄色バッチの人気のお仕事です。まず容器に磨き液を入れるところから始まりますが、子どもたちは皆、液がお皿に落ちる瞬間が興味津々のようで集中して少しずつ出します。次に綿棒で鏡に上下に液をつけ、３つの綿ボールで拭いていきます。この時、鏡に自分の顔が見えなくなったと面白がったり、少しずつ汚れが落ちて顔が映ってきれいになった、と喜ぶ子どもの姿が見られます。最後に小布で磨きあげ縁を歯ブラシできれいにしていきます。このお仕事は手首を使うことが多く、力の加減や手首の向きで汚れが落ちたり落ちなかったりするので、子ども達はちょっと難しいなという表情も時々します。またこのお仕事は、エプロンを使うので、後ろの蝶結びが出来ないときはお友達やお兄さん、お姉さんに手伝ってもらうのでお友だちと仲良くなる機会でもあります。鏡磨きを通して、子ども達は日常生活の中で埃や汚れを見つけると、楽しみながらその汚れをきれいにしていく、とモンテッソーリ先生は言っています。　（Ｋ．Ｓ）

青バッチがじっくり取り組んだお仕事

花の水替え
（日常生活の練習）

これは、「花の水替え」というお仕事です。今お庭には、色とりどりの花が咲いています。お部屋にも小さな花瓶に生けた花がたくさん飾られていますが、この活動を通して子ども達はたくさんのことを学びます。花は、毎日世話のいるものであること。花が一日でも長くきれいに咲くように水を替え、水切りをすること。茎や花の部分の名称をおぼえたり、また、水切りをした茎の表面はどんなふうになっているか確かめるために虫めがねでのぞいてみたり。時には、花瓶の水がなくなっていることを発見したり。また、優しく触らないと折れてしまうこと。力の加減を意識しながら、道具を使って行います。

そばにある花を大切に育てる優しい心が、さらにお庭や戸外にある植物へとつながっていくでしょう。　（Ｙ．Ａ）

＊保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは１人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、１人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

個別活動 モンテッソーリ活動

大　好　き　お　仕　事

赤バッチが最後まで取り組んだお仕事

スポンジ絞り
（日常生活の練習）

子ども達は“水”を使ったお仕事が大好きです。中でもスポンジ絞りは、赤バッチのお友達にとても人気のあるお仕事です。まず、２つのガラスのボウルを用意します。次に、一方に水を入れ、乾いたスポンジをその上に置きます。するとどうでしょう？スポンジが水を少しずつ吸って、ジワジワと膨らんできます。膨らんでいくスポンジに「うわー！！」という表情を見せる子ども達。そのスポンジの吸った水を、もう一方のボウルに移して絞ります。水が片方のボウルに全部移るまで繰り返し行います。ボウルの片方からもう片方へと気が済むまで何度も行っていきます。注意深く洗練された動きが自然と身に付き、自信や自立心にもつながっていきます。最後には、ボウルやビニールマットについた水滴をスポンジと小布を使い拭き取ります。そして、次のお友達のために新しいものを用意します。工程は長いですが、最後まで取り組んでいる姿がありますよ。

（Y．H）

黄バッチがじっくり取り組んだお仕事

幾可たんすとカード
（感覚教育）

子ども達は日々の生活の中でたくさんの形に出会っています。モンテッソーリの感覚教具の中に「幾何たんすとカード」というものがあります。６段の引き出しがあるたんすで、中には円、三角形、四角形、多角形などの幾何図形の木枠と、そこにはまる図形の木型が入っています。そして各図形と同じ形の３種のカード（ぬりつぶし、太線、細線）が付随しています。子ども達は視覚で形を捉え、手指でその型の輪郭をなぞってはめることで、触覚も使いながら、直線や曲線、角度など図形に関する感覚を経験していきます。カードと図形を合わせる活動では、ぬりつぶし、太線、細線と少しずつ図形が抽象化していきますが、繰り返し活動する中で、図形の名称を聞くだけで視覚の助けなしに形をイメージすることができるようになっていき、また環境の中にある形を見つけ出して楽しみます。

（Y．K）

青バッチが繰り返し活動したお仕事

セガン板
（数教育）

生まれてからいろいろな場面でたくさんの数字を目にしたり聞いたりしながら、また園でのお仕事でもビーズや数字カードを使って「銀行あそび」などの活動にも取り組んできました。そこでは千の位までのあらゆる数字の組み合わせを楽しみましたが、このセガン板では、数字には順序があってすべての数字はある規則に沿って連続してつながっている、ということの理解へと導いていきます。１～９のそれぞれ決まった色のビーズと金色の１０ビーズで「１と１０で１１」と言いながらじゅうたんに並べて１９まで行います。次に「10」だけが書かれた長い木製板２枚をつなげて１～９の数字カードをスライドさせながらはめ込み「11」「12」…と作り上げていきます。仕上げに板に示された数字の横に相当する数のビーズを添えながら、今度はビーズとカード両方の具体物に触れることではっきりと子どもに分かりやすく活動をします。

（M．H）

＊保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは１人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、１人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

2015.7.8

個別活動 モンテッソーリ活動

大　好　き　お　仕　事

赤バッチが繰り返し取り組むお仕事

五十音並べ
（言語教育）

書くための準備をするお仕事のひとつに「五十音並べ」というものがあります。この活動は五十音が一字ずつ書かれた木の板を１行分取り出して散らし、取り出した木の板を合わせて五十音表を作るというお仕事です。
五十音表が完成すると間違い訂正板（五十音表）を使って、自分の目で確かめて間違いに気付くことができます。間違いに気付く経験を私達は大切にしています。子どもは自分の力で正しく直すことができることや、完成させる喜び、「自分はできる」という自信をつけていきます。またこの活動を繰り返し行い五十音を覚えてくると、お友達と一緒に木の板を全て取り出し並べることや、１行の何番目かの木の板をひっくり返しあてっこすることを楽しみながら行う姿もみられます。（M．A）

黄バッチが楽しみながら活動するお仕事

小布を洗う
（日常生活）

子ども達の中で最も人気のあるお仕事のひとつに「小布を洗う」があります。いざお友達が取り組んでいる姿を目にすると、たちまち数人の子ども達が順番の予約に駆けつけて来る程の人気ぶりです。昔ながらの、お水が入ったたらいと洗濯板を使って手で洗濯をするという活動で、強い欲求と憧れを持って喜々として取り組みます。なぜこんなにも喜びに満ちて活動するのでしょう。それは私達大人には当たり前のことでも、汚れたものはきれいにすることができるという事実、更には大人の大きな手助けを必要とせずに自分の体を思うように動かして自分でできるという点にあります。このことは子ども達の自己形成の発達を助け、また身の周りの環境を整えていくことを実生活にも活かすことでやがては秩序感も養われていくようになります。（M．H）

青バッチがじっくり取り組むお仕事

幾何立体の籠～立体作り～
（感覚教育）

モンテッソーリの感覚教具に１０個の木製の立体（球、立方体、直方体、楕円形、卵体、円柱、三角柱、四角柱、円錐、三角錐形）が入った「幾何立体の籠」というものがあります。子ども達は布を被せた籠の中に手を入れて立体を１つずつ取り出し、その形状を触り、感覚を楽しみます。また立体を真横から、底から、上からなど色んな方向から面を見て観察します。その後名称のカードと立体を合わせます。お友達同士で名称を言って立体を取り出すゲームをしたり、環境の中で似たような立体を探したりして理解を深めます。青バッチの活動では、画用紙の上に立体を置き、面を写し取り、切って立体を組み立てたり、粘土で球体を作ったりして立体を再現します。緻密な作業ですが、これまでの様々な活動を通じて洗練されてきた手先を使ってじっくり取り組みます。（Y．K）

＊保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは１人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、１人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

個別活動 モンテッソーリ活動

大　好　き　お　仕　事

赤バッチが集中して取り組んだお仕事

雑音筒
（感覚教育）

子ども達が集中して行うお仕事の一つに「雑音筒」があります。この教具は一つの箱に赤いふたのついた筒が 6 本、もう一つの箱に青いふたのついた筒が 6 本入っています。それぞれの筒の中には石や砂など音の強さの違うものが入れてあります。赤いふたの筒と青いふたの筒を交互に耳元で振って、同じ音の物を探し並べます。音を探しているときの子ども達の表情は真剣で、何度も筒を振っては同じ音か確認する姿が見えます。2つの同じ音が見つかった時はとても嬉しそうです。その後、同じ色のふたの 6 本をそれぞれ音が強いものから弱いものへ並べていきます。繰り返し行っていくうちにわずかな音の違いに敏感になっていきます。いろいろな音にも興味を示していく姿が見られていきます。　（M．A）

黄バッチが一生懸命取り組んだお仕事

テーブルを洗う
（日常生活の練習）

これは、テーブルを洗うお仕事です。まず、テーブルに赤いチョークで汚れを描きます。次に石鹸をつけたブラシで、円を描きながら汚れを落とし、スポンジで拭き取り、最後に小布で拭きあげます。このお仕事をする子どもはみんな、チョークを使うのが面白い様で、力いっぱい隅々まで真っ赤にします。ブラシを使う時は、力いっぱい描いたのでなかなか汚れが落ちず、どうにかきれいにしようと一生懸命になります。この様子を見たお友達は「次にやりたい」と興味を持ち近づいてきます。スポンジを使う際は、汚れが消えた喜びで笑顔になります。汚れが残るとスポンジで何度も拭き取り、小布で仕上げ拭きをします。中には、一時間も繰り返し行う子どももいるほどです。モンテッソーリ博士は、ブラシ、スポンジ、小布を使って様々な動きをすることでやわらかい手首を作り、やがて美しい文字を書くことにつながっていくと言っています。

（K．S）

青バッチが集中して取り組んだお仕事

バナナを切る
（日常生活の練習）

子ども達はお母さんの行動をよく見ています。日常の会話もお掃除も、もちろんお料理も。「バナナを切る」活動は、いつもおうちでお母さんが使っている“包丁”の扱いに慣れる為の保育園オリジナルの活動です。

「包丁こわいな～。」活動前はこんな声や、少し不安な表情を見せる子もいます。しかし、始めてみると真剣そのもの！びっくりする位の集中力を見せてくれるのです！切ったバナナは小さなトレーに乗せてお友達に届けに行きます。「どうぞ」という言葉の中には「私が切ったの！すごいでしょ！」という意味も含まれているような…自信にあふれた表情を見せてくれます。それは活動前とは全く違う、堂々とした姿です。

この活動を通して包丁の扱い方やそれを使う自分の体の動かし方、長い活動の順序や秩序を学び、集中力を養います。「野菜の皮むき」や実際のお料理のお手伝いにつながっていく活動です。　（H．A）

＊保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは１人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、１人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

個別活動
モンテッソーリ活動

大　好　き　お　仕　事

赤バッチが繰り返し取り組むお仕事

木を磨く
（日常生活の練習）

お水とも洗剤とも違う、見慣れない磨き液の入った容器を見て、不思議そうに準備をするところから始まります。これは磨き液(椿油)と３枚の小布を用いて木を磨いていくお仕事です。３枚の小布には使う順があり、まずは木綿の小布で液体をつけ、タオルの小布で力を入れ磨き、仕上げとしてネルの小布でつや出しをします。
タオルで磨いた後とネルで磨いた後の木の色や、磨いてない部分の光の反射の鈍さを見比べたり、触ってみて「べとべとしてたのに、さらさらでつるつるだ！」と変化を思わず観察します。液体が残った部分を見つけては、自分で気付き適切な小布を選びます。そうして磨き終えると不思議と笑顔になっています。集中していた緊張がほどけた瞬間の、満足げなその表情は、この活動のもたらすものがまさに表れています。この磨くというお仕事で得られる柔らかい手首は、やがて鉛筆を持って字を書くことへとつながっていきます。（E．K）

黄バッチが時間を掛けて活動するお仕事

小さい本
（言語教育）

言語活動の「読む」の分野に「小さい本」のお仕事があります。全て単体の６種類の本から成り、科学的に分析し用意された内容となっています。例えば「小さい本 1」は見開き左右１ページずつというとてもシンプルな構成で、右ページには一つのことば（「かさ」など身近なもの）が、左ページにはその絵が描かれたものとなっています。「小さい本 1」から始めて、次の本はことばが複数になり、更には身近なものの説明文や会話文の本を経て、最終的に歴史上の人物など長い物語文へと発展していきます。初期には「小さい本」の中でことばを孤立化させることで子どもはじっくり集中でき、やがてことばのもつ意味を理解して新しい知識を自分の中に身につけていきます。本を進めていくうちに「ことば」から「文」へ複雑な内容へと変化していきますが、初めは先生に読んでもらいうっとりと聞いていた子どもたちも次第に自分の力で読み始め、最後には文を書いて自分の「小さい本」を作ることも出来るようになっていきます。
（M．H）

青バッチが楽しんで取り組むお仕事

二色の移動五十音
（言語教育）

言語活動を豊かにする教材はたくさんありますが、子ども達が五十音のカードを並べることで言葉をつくるのを可能にしてくれる教具が「移動五十音」です。仕切りのある木箱に五十音順に入っている文字のカードを並べ、言葉を作ります。各字７、８枚ずつ入っていますのでたくさんの言葉や文を作ることができます。今回ご紹介する「二色の移動五十音」は赤い文字で書かれた移動五十音の１セットと青い文字で書かれたもう１セットが準備されています。子ども達は初め「くるま」などの身近な言葉を書いたりしていますが、次第に「でんしゃにのった。」というような文に挑戦するようになります。その時、拗音（しゃ）や促音（っ）、等の特殊な音を含んだ言葉の書き方に戸惑います。注目してほしい部分を赤いカードで、他を青で表しながら言葉のルールを紹介します。句読点、カタカナ（ひらがなのカードの裏にカタカナが記載されている）等を紹介する場合にもこの教具を使います。カードを使って言葉や文を表した後、本やお手紙を書いたりするとても楽しい活動です。（Y．K）

＊保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは１人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、１人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

個別活動 モンテッソーリ活動

大　好　き　お　仕　事

赤バッチが集中して取り組むお仕事

紡錘棒箱
（数教育）

紡錘棒（つむぼう）箱では、【数と量の一致】を体感しながら知ることが出来ます。数と量の一致とは、２ってどれ位？４とはどれ位かな？ということです。教具である木製の２つの箱の一方には、０から４の数字、もう一方には５から９の数字が書かれていて、数字ごとに仕切りがついています。この箱に、木製の棒を数えながら入れます。１の場所には１本の棒、２の場所には２本の棒・・・という手順で、数字の書いてある場所に入れていきます。その後、１という単位を輪ゴムで束ねていくことで、初めて４や５といった【数】を作り出してきます。そして、子どもの小さな手で掴むことで、量が増えていくことを実感するのです。また、この活動によって０の場所には何もない、何もないのが０なんだと発見することもできます。（H．I）

黄バッチが一所懸命取り組むお仕事

蝶結び
（日常生活の練習）

これは、蝶結びのお仕事です。この教具は、紐が水色と桃色に分かれていて、玉結びをするところや、輪っかを作り、手前に一周させ指を通すところなど、どの紐を引っ張ればいいかわかりやすいように作られています。また一回ではなく、何回も練習できるように、５対のリボンがついています。どの子どもも熱心に取り組むので、「どんなお仕事をしているのかな？」と他の子が興味津々に近づいてきます。蝶結びが出来ると、給食の際に「もう、自分一人で出来る」とお当番が着るエプロンの紐を自分からすすんで結ぶようになり、満足そうな笑顔が見られます。また、モンテッソーリのお仕事の際もエプロンを使う機会が多く、「出来るからやってあげるね」と青バッチや黄色バッチが、赤バッチや緑バッチのエプロンを結んであげる姿がよく見られます。（K．S）

青バッチが喜んで活動するお仕事

困難な綴字法の紹介
（言語教育）

前回の青バッチのお仕事でご紹介した「二色の移動五十音」と同じ教具を使用するお仕事として、今回は「困難な綴字法の紹介」をご紹介します。ここでいう「困難な」とは主に「ちゃ」「ちょう」のような拗音や拗長音です。日ごろの子ども達の会話の中にも度々登場する、例えば「むぎちゃ」や「えんちょうせんせい」などといった言葉を、実際に教具のカードを使って書いてみます。はめ込み板という透明な板に、例えば「ちゃ」でしたら、上方に「ち」のカード、下方に小さく書かれた「ゃ」のカードを置きます。それぞれのカードに手を添えて、「ち」「や」「ち」「や」と交互に言いながら、ゆっくりと「ゃ」のカードを上へとスライドさせていきます。いよいよ近づいてきた辺りから「ちや」「ちや」、そしてとうとう上下のカードがくっついたところで「ちゃ」という言葉で完成します。声に出す言葉のリズムや速さの変化に、子どもたちは新しく何かを発見したかのような表情で言葉の持つ面白さに魅かれていきます。そうして今度は、身近にある「ちゃ」のつく言葉探しと楽しい活動へと発展していきます。

（M．H）

＊保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは１人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、１人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

個別活動 モンテッソーリ活動

大　好　き　お　仕　事

赤バッチが集中して取り組むお仕事

線上歩行
（日常生活の練習）

赤バッチは毎朝、活動をする前に白い線の上をバランス取りながら歩きます。線の上を歩くというと、簡単なことのように思えますが「歩く」を分析して行う、とても奥深い活動なのです。①まず、左足のかかとをつけ、ゆっくりと重心を移しながら左足のつま先までを床につけていく。②それに伴い、右足のかかとが上がってくる。③左足に完全に重心が移ったところで、右足を前に移動させ、左足のつま先にかかとをつける。④線から出ないように足を集中させる。これをゆっくりと繰り返していきます。慣れてきたら、お手玉を手のひらに乗せ落とさないように歩行したり、そのおてだまを手の甲に乗せて歩くなど段階的に難しくしていきます。日常生活では、白い線に限らず床に線があると意識的に線の上を両足で慎重に歩く姿も見られます。この活動では精神を集中させ、注意力や慎重さが養われます。バランス感覚や美しい姿勢も身に付き、全ての運動を慎重に調節することにより自己コントロールできる強い心を育みます。　（R．K）

黄バッチが好んで活動するお仕事

小さいかご１
（言語教育）

言語プログラムの中で「小さいかご」の活動は３種類あり、今回はその１つ目のご紹介をします。かごの中の数枚のカードには、一枚ごとに「えんぴつ」「ばけつ」など物の名前が書かれています。「小さいかご１」での約束として、カードには「持ってこられる物」を対象としています。子ども達はカードに書かれた文字を読み、その意味を理解して、対象となる物を自分のじゅうたんに運んできます。次のカードを読むとき、子ども達は期待を込めた輝くような表情になり、次々と運ばれた物はじゅうたんの上でいっぱいになります。「小さいかご１」は、言語教育のグループでは「読む」に属します。「読む」はその前段階の「書く」よりも困難性を伴い、知力を必要とします。第一に文字を口にするだけではなく、その意味を理解しなければなりません。次に言葉の意味を理解するために抑揚も正確でなければなりません。「**あ**め（雨）」と「あ**め**（飴）」、「**か**き（牡蠣）」と「か**き**（柿）」などがその例です。　（M．H）

青バッチが夢中になって打ち込むお仕事

縫う
ースパンコールつけー
（日常生活の練習）

モンテッソーリ活動の中には、洗練された指先をつくるためのお仕事がたくさんあります。その中でも「縫う」というお仕事は、子どもが集中して行う活動の一つです。「縫う」お仕事は、赤バッチの頃から、紙の上に目打ちであけた穴に太い針を通して波縫いをするところから始めます。目と手を協応させ、針に糸を通し、狙った場所に針を通す、糸が絡まないように紙の上下を順序良く進む、という練習を積むのです。そして次第に小さい針・細い糸を使い、針に糸を通し、玉結びや玉止めの練習を経て、布を使って縫うようになります。今、青バッチが夢中になっているのがスパンコールつけです。クリスマスツリーやブーツの形に切った小さなフェルト布の上にビーズやスパンコールを縫い付けてデコレーションします。夢中に取り組むことにより集中力が養われ、指先も器用になっていきます。やりたいお仕事のために忍耐強く順番を待つ姿も見られ、大好きな活動であることが見て取れます。　（Y．K）

＊保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは１人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、１人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

個別活動 モンテッソーリ活動

大　好　き　お　仕　事

赤バッチが必ずやりたい！と感じるお仕事

小布を洗う
（日常生活の練習）

　これは、せんたく「小布をあらう」活動です。
赤バッチは、日常生活の中で大人が行う事をマネしたがります。その中のひとつせんたくは、とっても魅力的な活動のひとつです。現代においてあまり使用することのない「せんたく板」を使います。「せんたくいた？」と名称を伝える時も見たことのない、聞いたことのない表情をします。布などを洗い終わり洗たく桶の栓をぬくと、水が流れる瞬間が子ども達は大好きで、のぞきながら、流れる様子をじっとみています。洗たく板など道具の扱い方を知り、両手を使って自分の意思どおりに身体を動かすことは、子どもにとって最大限の喜びです。身の回りにある物をきれいにすることは、豊かな愛情を導き、環境を受け入れ、大切にする心を育てていきます。活動を終えると、もう一回やりたい！と次の日も必ず繰り返し行う、大人気の活動です。　（Y・A）

黄バッチが集中して取り組むお仕事

文字探し
（言語教育）

　これは、文字探しと言うお仕事です。使う教材は、６枚の名前付きカードと、それに付随した文字カード数枚です。名前付きカードには文字と絵が描かれています。文字カードには、一枚に一つの文字が書かれています。まず、お盆の中の６枚の名前付きカードを、横に一枚ずつ並べます。次に文字カードを名前付きカードの下に置きます。この時のポイントは、教師が文字カードを順不同に置くことです。順不同の文字カードを子どもは、名前カードの右に置きます。子どもは文字が読めなくても、文字の形を見て、文字カードを置くことが出来ます。また、絵から判断して、知らない文字を読めることもあります。次の段階では、全ての文字カードをバラバラに置き、その中から一枚ずつ探し出す作業になるので一段と難しくなります。教師は、季節によって名前付きカードの絵を替え、子どもたちにとって魅力的なお仕事になる様に工夫しています。　（K．S）

青バッチが心を込めて向かうお仕事

お茶のサービス
（日常生活の練習）

　寒くなり、おしごとにもちょっとした変化がありました。夏ころから行っている　“お茶のサービス”　では、温かいお茶での活動が行われています。お茶のポットには蓋が付いており、注ぐときはその蓋を抑えなければなりません。カップには同じ素材のソーサーが付いており、そっと運ばないと滑ってしまったりこぼれたりします。今まで使っていたピッチャーとカップにはなかった難しさがありますが、子ども達はそれを自然と感じとり、自分で考え、集中して取り組む姿が見られています。ひとつの活動でも季節に合わせたものを取り入れることで複雑になり、細かい配慮や動作が必要になることがあります。
“お茶のサービス”では、日々のやり取りの中でそれを子ども達自身が学び、伝えあい、洗練された動きを身に付けていきます。また、ちょっとしたリラックススペースでもあり、素敵な時間が流れていきます。（H・A）

＊保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは１人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、１人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

個別活動 モンテッソーリ活動

大　好　き　お　仕　事

赤バッチが繰り返し取り組むお仕事

小さい黒板
（言語活動）

この活動は言語の中で初めて実際に文字を“書く”ことをします。
すりガラスの下に一文字だけお見本を入れます。その文字は色分けされており、筆順が一目でわかるようになっています。子ども達はお見本をよく見てチョークを使ってゆっくりと丁寧になぞり、時間をかけて一文字を完成させるのです。
まだまだ自分の手やチョークを上手に使いこなせず、お見本通りには書けません。しかし、この活動は書いたものを消して何度も繰り返す事ができるのです。自分が納得する字が書けるまで、集中する姿が見られます。
自分の名前につく文字や、お友達の名前の文字など、上手に書けたら大喜び！とても満足げな顔を見せてくれます。大人は当たり前のように書いている一文字ですが、子どもにとってはとても大切な一文字になっているようです。
（H．A）

黄バッチが繰り返し取り組むお仕事

ビーズとカードによる加法
（数教育）

ビーズとカードを使って、2～3人の子ども達で4桁の数字を計算して答えを出すという活動です。わずか4～5才の子ども達が4桁の数を扱うという点に驚かれるかもしれません。私達はこのお仕事を「銀行あそび」と呼んでいますが、科学的に細かなステップで分析された方法を行うことで子ども達は楽しみながら活動します。まず、子ども達それぞれに与えられた数のカードと、それに値するビーズを用意します。この時ビーズはあらかじめたくさん用意された場から取っていきますが、「銀行やさん」と呼ぶほど子ども達には大人気の場所です。じゅうたんに風呂敷を広げ、それぞれ用意した自分のビーズを入れていき、そっと包み込んで重さを実体験します。量による重さの違いを感覚的に実感するこの時は、子ども達の大好きな瞬間です。次に、無秩序な状態のビーズを、今度は1のビーズ、10のビーズ…と位ごとに分けていき、その数に見合う数のカードを選んでいきます。この場合大きなサイズのカードを使いますが、つまりこの大きなカードこそが初めに与えられた数を合わせた「こたえ」となっているということになります。こうして活動を楽しむうちに「小さな数を一緒にすると大きな数になる」という概念を体感していきます。（M・H）

青バッチが発見を楽しむお仕事

小さい六角形の箱［構成三角形5］
（感覚教育）

この教具は、木箱の中に、同じ大きさの2枚の小さい赤い正三角形と3枚の小さい緑の正三角形6枚の小さい灰色の正三角形が入っています。各正三角形には辺に黒い線がついていますので、黒い線が引いてある辺を合わせることで、いろいろな図形を作ることができます。赤い2枚の正三角形で菱形を、緑の正三角形3枚で台形を、灰色の正三角形6枚で正六角形を作ります。正三角形を合わせることで別の幾何図形ができることを十分楽しみ、その名称を知らせた後、子ども達に次のように問いかけます。灰色6枚でできた正六角形を指し、「この正六角形の中に台形があるかしら？」すると、子ども達は、正六角形を2分割します。続いて「この正六角形の中に台形はいくつある？」と尋ねると、「2つ」という答えが返ってきます。更に「台形がいくつで正六角形になるの？」、「2つ」と、このようなやりとりを繰り返します。同じように正六角形の中に菱形が3つ、菱形が3つで正六角形となる発見を繰り返します。図形を組合せる楽しい活動の中で、わり算やかけ算といった数の活動の準備もしているのです。
（Y．K）

＊保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。